



ID: 1421

科目名	権利擁護と成年後見【26年度生用】			コード			
英語表記							
担当教員名	伊藤 孝司			年度	平成26年度		
基準年次	2年次	開講期	前期	単位数	2		
授業形態	講義	授業形式		履修形態	選択		
授業概要							
介護保険制度と同時に成年後見制度の全面的な改正が実施され12年が経過した。この間に社会福祉士の活躍する領域も拡大してきた。しかし、認知症高齢者、知的障害者、精神障害者など、判断能力が不十分な人たちの権利侵害は社会の変革の中で増加傾向にある。その中ですべての人々が安心して暮らせるためには生活全般の相談援助の専門職である社会福祉士の役割も大きく、だからこそ「相談・援助」の名の下に人権侵害をしてしまうことのないよう鋭い人権感覚を見につけることが重要である。							
到達目標							
①法律の中でも特に民法を理解する。②成年後見制度を理解する。③成年後見制度周辺の福祉制度を理解する。④権利擁護と成年後見制度の関係を理解する。⑤事例により成年後見活動の実際を理解する。							
授業計画							
第1回	契約型福祉社会と権利擁護 ～措置から契約へ～ 「権利擁護の概念」						
第2回	措置制度の理解 介護保険制度の創設から社会福祉基礎構造改革へ						
第3回	契約型福祉社会と権利擁護 成年後見制度と日常生活自立支援事業について						
第4回	成年後見制度の概要 法定後見制度と任意後見制度について						
第5回	成年後見制度について ①後見類型						
第6回	②成年後見人の義務と責任						
第7回	③成年後見制度の運用 最近の動向と課題						
第8回	④成年後見制度利用支援事業						
第9回	日常生活自立支援事業の概要と運用について						
第10回	権利擁護に関わる法の理解について①日本国憲法の理解						
第11回	②行政法の理解 ③民法の理解						
第12回	権利擁護に関わる専門機関・団体・専門職の理解						
第13回	権利擁護活動の実際 事例検討						
第14回	事例検討						
第15回	事例検討						
評価方法と基準			評価項目と割合(%)				
レポート提出とします。100点満点で60点以上が合格			出席	授業態度	レポート	期末試験	その他
				30	70	0	0
授業外学習			テキスト、教材				
			新・社会福祉士養成講座19『権利擁護と成年後見制度』中央法規出版株式会社				
参考書			受講生へのメッセージ				
『ソーシャルワークと権利擁護』～福祉を学ぶ人へ～ふくろう出版			司法と福祉の接点である領域について社会福祉士の活動の場が広がっています。その領域であるリーガルソーシャルワークについて学びましょう。				
キーワード							
『措置から契約へ』『契約型福祉社会』『権利擁護と成年後見制度』『リーガルソーシャルワーク』							